

令和4年7月19日

西脇市長 片山 象三 様

西脇市まちづくり推進審議会  
会長 平田 富士男

## 西脇市市民提案型まちづくり事業企画書の審査結果について

令和4年7月4日に開催した本審議会のまちづくり活動審査部会において審査したみだしのことについて、下記のとおり取りまとめましたので、西脇市市民提案型まちづくり事業補助金交付規程第7条第2項に基づき、本審議会の意見として提出します。

## 記

団体名	事業名	事業費 (補助要望額)	補助決定額 (補助対象額)	補助率 (%)
西脇市美術協会	アートフェスティバルにしわき(仮称)事業	750,000円 (300,000円)	300,000円 (750,000円)	40.0
北はりま障がい者美術公募展世話人会	北はりま障がい者美術公募展事業	408,300円 (220,000円)	220,000円 (220,950円)	53.9
西脇スマイレ座上映会プロジェクト	西脇スマイレ座映画上映会実施事業	280,000円 (220,000円)	220,000円 (280,000円)	78.6
Hot Spot 実行委員	Hot Spot 事業	325,000円 (300,000円)	300,000円 (300,000円)	92.3
合 計		1,763,300円 (1,040,000円)	1,040,000円 (1,550,950円)	—

※ 各団体の補助金等の詳細については、別紙審査個票のとおり。

市民提案型まちづくり事業審査に係る意見（令和4年度 前期申請）

団体名	意見
西脇市美術協会	事業が多くの市民に浸透するよう事業内容を工夫すること。
西脇スマイレ座上映会プロジェクト	事業が広く市民に支持され発展し、中心市街地の活性化に繋がるよう事業の周知方法を工夫するとともに団体の体制強化も検討いただきたい。

**北はりま障がい者美術公募展世話人会**  
**代表 小松原 謙介 (会員30名)**

①	事業種類	対象地域	市内外全域（北播磨地区）	実施期間	4.4.1 ～ 5.3.31		
②	予算／要望額／補助対象額	予算	¥ 408,300	要望額	¥ 220,000	補助対象額	¥ 220,950
③	事業名	北はりま障がい者美術公募展事業					
④	事業目的	障がいのある方々の美術活動に光を当て、その作品を通じて障がい者と健常者の交流を深め、障がい者への差別解消と共に、合理的配慮の提供、促進につなげる。					
⑤	事業内容	世話人会を中心に、募集要項を障がい者施設、学校、個人に案内し、審査の上出品作品を市民に公開、展示する。					
⑥	事業効果	障がいのある方々が出品を通じて自信を深め、社会参加するきっかけを作る。また、その作品を多くの市民の方々の鑑賞の場を提供することで、アールブリュットの美術への理解が広がる。					
⑦	事業の特色	北播磨で初となる、障がい者美術公募展であり、今回で3回目となる。1回目107点、2回目168点の出品が有り、その作品の素晴らしさに多くの方が感動されている。更なる出品者の広がり、この美術活動への理解を通じて障がい者の方々と市民の交流を広げていく。					
⑧	今後の展開	出品者に販売の機会を提供する。第4回に向けて、どう経費を捻出していくか、工夫が必要である。したがって、県や他の市町の補助金の活用等を視野に入れて活動していく。					

**西脇スミレ座上映会プロジェクト**  
**代表 越川 誠司 (会員5名)**

①	事業種類	対象地域	市内全域		実施期間	4.6.1 ~ 5.3.31	
②	予算／要望額／補助対象額	予算	¥ 280,000	要望額	¥ 220,000	補助対象額	¥ 280,000
③	事業名	西脇スミレ座映画上映会実施事業					
④	事業目的	昭和の昔、映画館が5館を数えた西脇のまちなかの空き店舗を活用し西脇に縁のある映画作品の上映会を実施する。「映画館のまち」西脇を市内外にアピールし、まちの映画文化の再興を目指す。					
⑤	事業内容	かつての西脇の老舗劇場「蓬莱座」の隣に位置する旧スミレ洋装店の空き店舗をお借りしスクリーンと映写機を設置、上映会を開催する。市民や映画ファンに向けチラシやポスター、SNSなどで告知する。時期は秋に2回の上映会を予定している。					
⑥	事業効果	西脇区コミセンの協力も得て空き店舗を活用することで、まちなかの活性化を図る。また西脇の映画文化の掘り起こしと「映画館のまち」西脇をPRする。					
⑦	事業の特色	単なる映画上映の催しに留まらず、かつての映画館に関する資料なども用意して西脇と映画の歴史を振り返る機会とする。					
⑧	今後の展開	西脇は「SDGs未来都市」でもあり、環境問題をはじめ身近な社会課題を取り扱う作品も上映し市民の関心をつなげていきたい。					

**Hot Spot 実行委員**  
**代表 岡崎 敦 (会員 5名)**

①	事業種類	対象地域	市内外全域		実施期間	4.7.1 ~ 4.10.4	
②	予算 / 要望額 / 補助 / 対象額	予算	¥ 325,000	要望額	¥ 300,000	補助対象額	¥ 300,000
③	事業名	Hot Spot 事業					
④	事業目的	<p>西脇を広くアピールし、みんなで盛り上げ元気にする。          西脇市には素敵なお店や文化があり、おもしろい町なんだとっと色んな人に知ってもらいたい。          食 (coffee&amp;BAR POT/バーガークレイジー/すぎや/アパチのセイロンカレー/waccaなど) ・ファッション (QYC) ・音楽 (アコースティックライブ/DJ) ・ダンス (ヒップホップ/ジャズ/キッズダンス) ・アート (西脇市出身、京都在住yankeekongさんのライブペイント) ・スケートボード (特設ミニランプ設置) など、あらゆる角度から色んなものに触れて誰もが楽しめるマルシェをつくり、参加者の交流を深める。</p>					
⑤	事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象：北播磨圏内の老若男女 (子供も含む)</li> <li>・時期：令和4年10月1日 (土)</li> <li>・場所：北はりまエコミュージアム</li> <li>・内容：同上 (事業目的に記載)</li> </ul>					
⑥	事業効果	<p>お客様と出店者・演者様との繋がりをつくる事で事業以外で西脇市へ遊びに来てもらう機会が増える。          子供達に将来の夢や希望を与える事が出来れば、西脇の発展に繋がる。          事業を通して新たにイベントの魅力や西脇を発見してもらう。</p>					
⑦	事業の特色	<p>食から音楽・アート・ダンスまで一堂に集まったイベントは市内ではあまりない。          特に若者が中心になる事によって、若いエネルギーと西脇の将来を担う土台作りをしていく。</p>					
⑧	今後の展開	<p>毎年、もしくは半年に一回開催し、事業拡大を目指し、最終はへそ公園でイベントを開催したい。</p>					

西脇市美術協会

代表 藤原 廣幸 (会員62名)

①	事業種類	対象地域	市内全域		実施期間	4.5.1 ~ 5.3.31	
②	予算／要望額／補助対象額	予算	¥ 750,000	要望額	¥ 300,000	補助対象額	¥ 750,000
③	事業名	アートフェスティバルにしわき (仮称) 事業					
④	事業目的	西脇市とともに、西脇市民の芸術活動の推進と発展を希求し、美術協会は活動を続けてきた。その創立70周年を機会ととらえ、アート活動で、現代社会における多様な課題に対応できる地域・人材を育成し、文化の香るまちづくりに寄与したい。 生涯学習の一翼を担い、「多様な人々が共生できる社会」を支える人材の育成を目指せる事業とした。					
⑤	事業内容	事業対象は、市内全域、美術を愛好するすべての西脇市民。大きなテーマは「アートで何ができるか、アートでまちづくりに貢献する」とし、「アートフェスティバルにしわき」(仮称)を2022/11/9～2022/11/13に実施する。主たる会場は、西脇市総合市民センターとし、日常と違う異空間に演出したい。 1. できるだけ多くの市民に協会の作品の鑑賞をしていただくとともに、市民参加型ワークショップを実施し、協会員と一緒に作品作りを体験する。 例＝クロッキー・デッサン、ねんど整形、書、七宝、スマホによる写真の撮り方等 2. 講演会を実施する 「アートが、社会課題を解決する」(仮題)講師＝兵庫県美術家同盟代表(予定) 3. フェスティバルに市民オーケストラや中学校ブラスバンドに出演を依頼し、お祭り気分を盛り上げる。					
⑥	事業効果	兵庫県美術家同盟の代表を講師に招き、記念講演として、県下における西脇市の美術活動の相対的状況などの解説をお願いし、西脇市民が生涯学習としての美術活動(多様な社会を生き抜いていくためのアート)を展望できるよう示唆をいただこうと考えている。 協会展を開催し、多くの市民の方々に、協会各部門(日本画部・洋画部・書部・写真部・彫塑部・工芸部・デザイン部)の会員それぞれの世界観を作品から鑑賞していただく。 それに合わせて、広く市民参加型のワークショップを実施する。美術製作に関心を持って、一人でも多くの市民に、作品作りの楽しさを味わってもらおう。 これらの事業をすることにより、即効的な効果は期待できにくい、まちづくりやひとづくりにおいてアートが担う役割は大きいと考える。 ある小冊子に、東京藝術大学、美術学部長の日比野勝彦氏が投稿された文章の中で『年齢に関係なく、アートに対する関心は、将来の不安や、社会的課題を自分の中でどう処理をするのかの方向にある。』略と書かれている。 『社会的課題とアートとのかかわり』は、このことについては古くは「雨傘」の例がある。雨をしのぐために我々の祖先は、どう解決したか?(内容省略)。現代においては、いじめ問題等がある。現代人はどう解決していこうとするか?その手段の一つは、相手を理解する想像力を涵養すること。一方、そのために自分を表現する力を培うこと。アートが社会課題にかかわるとは、個々人の想像力・表現力を涵養するところにあると考える。					
⑦	事業の特色	横尾忠則氏をはじめ、優れた才能を多く輩出してきた西脇市で、芸術活動を続ける美術協会が主体となって市民を巻き込んだ「アートフェスティバル」を企画実施したい。 少子高齢化社会の中で、一人一人が趣味を通して、より高い自己実現を目指す機会になるよう、事業実施については心がける。 若い人にはSNSを利用した情報の発信等、美術協会自身の門戸を開いていくよう検討する。 現代人の多くが悩みや不安を抱えている。アートがそういう社会課題を解決することがある。 という点からのアピールポイント Community development with art アートでまちづくり Surviving diverse societies with art アートで多様な社会を生き抜いていく New prospect 新しい資源の掘り起こし					
⑧	今後の展開	西脇市における美術活動の推進の一翼を担う。 1. アートフェスティバルを継続していく中で、今後、市民公募も考えていきたい。 2. ドウジウムでの各部門ごとの郷土作家ギャラリー展も引き続き実施するとともに、各地区公民館等を利用しての巡回展も企画していきたい。 3. 西脇市及び文化連盟が主催する、「市展」及び「春のカルチャー市民作品展」等にも協力し、市民展を盛り上げていきたい。 4. 西脇市美術協会として、SNSで事業の案内や個人作品の発表をしていくための組織を編成したい。個展やクラブ展を通しての市民交流も継続する。 5. 後進の指導に当たる。会員の掘り起こし。 6. 西脇市出身者が卒業または在学する大学(主に美大)と情報の交換ができればと考える。					